利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

_					
	事業所番号 2192200018				
	法人名 株式会社 共寿				
	事業所名	事業所名グループホーム南濃「福寿苑」所在地岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地			
	所在地				
自己評価作成日 令和元年12月25日 評価結果市町村受理日 令和2年2月25日				令和2年2月25日	

### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.mhl w.go.j.p/21/index.php?action.kouhvou.detail\_022.kani=true&i.gvosvoQi=2192200018-008Servi.ceQd=3208Type=search

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和2年1月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の共用スペースであるリビングは広く採光に優れ明るい空間となっており、またすぐそばの山々を一望でき、四季の移り変わりを利用者様に感じていただいております。そんな自然に恵まれた環境の中で、基本理念である「ぬくもり、ゆとりある空間を大切に」のもと、利用者様がその人らしくご自分のペースで暮らしを継続できるように支援しています。職員の定着率は高く利用者様とも馴染みの関係が築かれ、常に人生の先輩として敬いの心で接するよう心掛けています。地域ボランティアによるイベントを定期的に開いたり、季節の行事や利用者様の要望に応えたイベント、外出支援など、利用者様、家族の方、職員も一緒に楽しむ機会を毎月行っています。家族の方とは「利用者様を支える」共通の立場として連絡を密にし、重度化、終末期の場合は終末期ケアや看取りについて話し合いを重ねるなど信頼関係を築いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

終末期に向けた方針を契約時に家族に伝え、状態が変化したときは、その都度家族の意向を確認している。重度化したときは、協力医の往診時に家族に来ていただき職員も一緒に説明を聞いて話し合っている。看護師から介護職員に終末期の具体的な対応を伝えている。利用者の食べたい物を聞きながらユニット毎に献立を立てている。利用者は、エプロンを付けて食器を洗ったり、たこ焼きやお好み焼きを焼いたりしている。職員は利用者と一緒に座り、会話を楽しみながら食事している。管理者は、現場に入る機会が多く、常日頃から職員の意見を聞き、レクリエーションや外出先、物品の購入など職員から提案されたことは出来る限り実現できるように取り組んでいる。

	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該	取り組みの成果 当するものに〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	O 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
7	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 〇 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
31	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	1. ほぼ全ての利用者が				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

# 〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自	外		自己評価外部評価		<u> </u>
Ξ	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.Đ	里念し	- - 基づく運営			
1		念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	毎月の職員会議で施設理念の唱和を行っている。施設内にも掲示し、理念の共有、日々のケアの実践に努めている	管理者は利用者一人ひとりのペースを大切にすることを伝えている。職員は利用者がいきがいを持って過ごせるように心掛けている。理念について職員間で話し合い落ち着いた生活が送れるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している		地域の保育園児や中学生が訪問し利用者と 交流している。地域の方が事業所の畑を手 伝って、利用者と一緒に野菜等を収穫してい る。地域のボランティアや近隣の福祉施設の 利用者が訪問し交流している。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	電話や訪問による問い合わせには、支援の 方法やアドバイスを行っている。キャラバン メイトの活動として、認知症の啓発活動を 行っている		
4		〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている		地域の代表者や警察官、消防署員などが参加し事業所の状況を報告して意見を交換している。地域とのかかわりについて意見を求めたところ、地域の子供会の神輿に立ち寄ってもらえるようになった。	
5	•	えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の非常時放送設備が置かれ、徘徊高齢者SOSネットワークに認定されている。ケアサービス向上連絡会、ケアプラン支援協働事業に出席し、事業所の実情や取り組みについて伝えている	事故報告など書類を提出時に担当者と意見 交換をしている。市主催の会議や催しに参加 し情報交換している。市から依頼を受け講師 を引き受けたり、緊急の利用者を受け入れた りして協力関係を構築している。	
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる		管理者は、本社で定期的に行われる委員会 や会議に出席して拘束や虐待について学ん でいる。学んだ情報を事業所の会議で職員 に伝えている。職員同士確認し合いながら拘 束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で の虐待が見過ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、 必要に応じて個別指導、定期的な面談、ま た全体で研修を行い職員に周知徹底してい る		

	グループホーム南濃「福寿苑」			
	<b>外</b>	自己評価	外部評值	
	部。目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	川し、日常生活目立文援事業や成年後見制		
9	〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し同意を得ている		
10		突が時に他談念口についての説明や小人 ターの提示を行っている。他に家族アンケー トの実施や音目籍の設置など取り組んでい	毎月、外出や行事などの写真を載せた手紙を送付している。家族の面会時に利用者の近況を伝えながら要望を聞いている。家族から運動して欲しいと要望があり、歩行する機会を多くしている。	
11 (	7) 〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が日頃から意見や相談、要望を言える関係作り、職場作りに努めている。ほかに自己評価表の作成、年2回の個別面談を実施している	管理者は、現場に入る機会が多く、常日頃から職員の意見を聞くようにしている。レクリエーションや外出先、物品の購入など職員から提案されたことは出来る限り実現できるように取り組んでいる。	
12	〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員か息欲を持つて動ける職場作りを目指 している。またち終体吧の取得家は2000をお		
13	〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	施設内外の研修は年間計画を立てているが、今年度は内部研修が主となっている		
14	〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	会に出席し、同業者との交流、学ぶ機会を		

自	<u> </u>	自己評価	外部評価	
2	部目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、本人と事前面談を行う。安心感を持ってもらうよう笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を 共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16	こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事 業所における対応システム等を説明する。どの ような対応ができるか話し合い、安心して利用で きるよう努めている		
17	の時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も今めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18	暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを忘れずに、本 人の話に耳を傾け、お互いに冗談を言い笑い合 えたり、相談に乗ってもらうなど助け合いながら 共に生活が送れるよう関係作りに努めている		
19	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。時には、本人にとってよりよい支援について相談、助言を仰ぐことがある。 家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしている		
20	別での関係が述切れないよう、文振に劣めている。	馴染みの人の面会や電話がある。また家族の協力のオレーウ学のチにいの総合を持っている	入居前から夜間に行っていたカラオケ教室に 家族と出掛けられるように支援している。家 族の協力で馴染みの店に出掛けている。職 員は、利用者の知人が訪問したときは再訪を お願いしている。	
21	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、 状況に応じ職員が間に入る。別ユニットの利用 者とも合同の行事があり交流している。介護度の 重度、軽度に関わらず、基本的に行事やレク、外 出は全員参加していただいている		

		ブループホーム南濃「福寿苑」			
自	外	<b>十</b>	自己評価	外部評価	
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		O関係を断ち切らない取組み			
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関	退所後も、木人や家佐の相談があった場合		
		係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族	とうが及り作うである。 しつでも、サポート 良好が関係を保つ上う怒		
		の経過をフォローし、相談や支援に努めている	めている		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23		〇思いや意向の把握 			
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握	職員間で共有している。困難な場合は、表	いている。職員は会話の中で「何をしたい」	
		に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し	情や行動から把握するように努め、本人本	「どうしたい」など質問を工夫している。困難	
		ている	位の立場に立ち職員間、家族で検討してい	な場合は、家族から情報を得て問い掛け、表	
			5	情やしぐさから思いを把握している。	
24		Oこれまでの暮らしの把握			
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環	木人や家佐からの情報を共有している。こ		
		境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	力までのサービス利用については担当		
		めている	者、ケアマネと連携を図り把握に努めている		
0.5		つ 甘 こ I の I 印 小 か I 印 小 か I 目 小 か I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
25		〇暮らしの現状の把握 1711年 ホーショルギーナー	毎日バイタルチェックを行い、本人の過ごし		
		一人のとりの一口の廻しし刀、心身体感、有りる	方など記録に残し、申し送ることで把握に努		
		力等の現状の把握に努めている	めている。些細なことでも現状に変化がない		
			か見逃さないよう留意している		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング		職員が毎月モニタリングを行っている。家族	
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方	毎月モニタリングを行い、職員間で現状を話	の面会時に計画への意向を聞いている。毎	
		について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、			
		それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即		している。状態が変化したときや退院時は現	
		した介護計画を作成している		状に即した計画を作成している。	
27		〇個別の記録と実践への反映			
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を	ロ告生活の由で気づいたーレけ、個別記録		
		個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら	日市エカリナでメラッドにしま、凹刃記跡		
		実践や介護計画の見直しに活かしている	で中で送りで戦員間で共行し、計画の元直しや実践につなげている		
		人が、1月2日1日27万日日1111111111111111111111111111111	して大阪にしつないしている		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化			
		本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズ	本人のニーズが実現できるように、レクや外		
		に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟	出支援、訪問マッサージなど、本人や家族		
		な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	の状況に応じて取り組んでいる		
1		1			

	グループホーム南濃「福寿苑」			
自	外一	自己評価	外部評価	
2	部目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いている。ボランティア団体や保育園と定期的に関わり合い楽しみのある暮らしを支援している		
30	(11) Oかかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	人所前にかかりつけ医の確認をし、納得した上で安心して医療を受けていただく。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け堂に受診	る家佐が同行する場合付利田老の米能を	
31	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気付き、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32	利用省か入院した際、女心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12) 〇重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所	設で	契約時に事業所の方針を伝えている。状態が変化したときは、その都度家族に意向を確認している。重度化したときは、協力医の往診時に介護職員と一緒に家族も説明を聞いている。看護師から介護職員に終末期の具体的な対応を伝えている。	
34		いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13) 〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	美院に煙を発生、仮間想定などの避難訓練を美施している。近隣の地域住民でもある家族には、災害時の協力を要請し訓練にも参加してもらって	夜間想定も含めて年2回訓練を行っている。 搬送方法や指定避難所まで実際に避難する など工夫している。食糧や水、備品など備蓄 している。市の防災担当者や地域の方から 地域の情報を得て対策を検討している。	

É	外 <sup>並7</sup> 目	自己評価	外部評価
己	部	実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
	との人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
36	(14) 〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	ケアにあたる時や接する時は、誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。居室の入口には各室のれんを付けプライバシーを保護している	トイレ誘導時に耳元で声を掛けるように心掛けている。管理者は気になることがあった時は、その都度注意している。居室の入口にのれんを付けているが、扉の窓ガラスの一部が行えるように取り組んで欲しい。 透明であり居室の中が見えていた。
37	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	普段から信頼関係作りに努め、日常会話を 大切にし、できるだけ本人の希望を取り入 れている	
38	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく利用者一 人一人のペースに合わせた支援を行っている	
39	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように	その人らしいおしゃれが出来るよう一緒に服を選ぶ。毎月美容師が訪問し、希望に応じて好きな髪形にカットしている。家族の協力のもと、馴染みの美容室に出かける人もいる	
40 (	(15) 〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つである為、一人ひとり の好みを考慮し、利用者と職員が会話を交 え同じテーブルで一緒に楽しく食事が出来 るようにしている	利用者の食べたい物を聞きながらユニット毎に献立を立てている。利用者は、エプロンを付けて食器を洗ったり、調理を手伝ったりしている。職員は利用者と一緒に座り、会話を楽しみながら食事している。
41			
42	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	ロ中の残渣物、汚れ、臭いが生じないよう 毎食後その人に適切に合った口腔ケアを 行っている	

	フホーム南濃「福寿宛」			
自外空	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	が他の大衆であむっの大衆用を減らし、人のとり	を把握し、声かけや誘導を行っている。介助 の必要な利用者もできるだけトイレで排泄で きるよう支援している	日中は、出来る限りトイレに誘導している。困難な場合でも二人で介助してトイレに誘導している。入居前はオムツを使用していたが、排泄パターンを把握して職員間で話し合い改善した方もある。	
44	〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便の有無を把握し、長期の便秘にならないよう水分補給の援助など一人ひとりに合わせて対応している		
45 (17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている		順番や湯温、時間など利用者の希望を聞いている。希望すれば週6日入浴することができる。嫌がる方には声掛けを工夫したり、人や時間を変えたりしている。職員は、会話しながらゆっくりと入浴できるように支援している。	
46	〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣、体調に合わせてすごしていただいている。夜間は環境を整え、安眠できるよう支援している		
47	〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の情報はカルテ、介護記録ファイル双方にあり把握することができる。変更時は申し送り欄に記載し共有、体調確認に努めている		
48		他の利用者と一緒にレクに参加したり、個別で取り組んだりして、楽しいことや気分転換ができることを支援している		
	けられるよう支援に努めている。又、普段は行け	大気の良い口は飲少にでかりカーテーノクや景色を楽しんでいただいている。初もうでやお花見など季節に応じた外出支援も行っている。京佐のおよるより、京佐のおよりでは、	でさるように又抜している。利用自に用さばいまたて、発切がなりに買い物がおもまたに出まれ	

		ブループホーム南濃「福寿苑」			
自	外	↑ 	自己評価	外部評価	
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		明見は、平人かの並ど付っての人別でと野性しており、一人なりの発望や力に応じて、お全な話	家族と話し合い、できるだけ本人の希望に 添うよう支援している。必要な物は家族や職 員と一緒に買いに行くなどその人により対 応している		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を取り次いでいる。 状況に応じて、代わりに家族に伝えるな ど支援している		
52	(19)	ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな	所の知道、全調なと能慮し共用人へ一人か 利用者によるで民心地のいは担訴したスト	いる。  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	自分の席以外にソファやテレビの前、和室などですごし、気の合った者同士でくつろいだり談笑できる		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	居室の壁には、家族や昔懐かしい写真が 飾ってあったり、本人が作った作品や誕生 日の写真も貼りだしてある。テレビを視なが らひとりでゆったりと過ごす利用者もいる	テレビやテーブル、椅子など使い慣れた物を持ち込んでいる。仏壇や位牌など馴染みの物を持って来ている。家族や孫の写真や作品を飾っている。居室でDVDを見ながらカラオケの練習を行うなど自由に過ごしている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握 し、安全な環境の中で安心して生活が送れ るよう支援に努めている		

# 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	令和元年12月25日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

## ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.nhl w.go.j.p/21/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kani=true&ligyosyoQd=2192200018-008ServiceCd=3208Type=search

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和2年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピール	レしたい点(事業所記入)】

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

٧.	Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項 目 取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と O 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	<ul><li>① 1. 毎日ある</li><li>2. 数日に1回程度ある</li><li>3. たまにある</li><li>4. ほとんどない</li></ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 〇 3. たまに 4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	1. 大いに増えている 〇 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が O 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1 ほぼ全ての利田者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 〇 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	1. ほぼ全ての利用者が				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自			自己評価	外部評価	<u> </u>
<del>-</del>	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.Đ	里念し	- こ基づく運営			
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	毎月の職員会議で施設理念の唱和を行っている。施設内にも掲示し、理念の共有、日々のケアの実践に努めている		
2	(2)	流している	地元の行事に参加したり、保育園児の来苑、地域住民の方から野菜をいただくなど 交流がある。散歩の途中で挨拶、おしゃべり をしたり、イベント開催時は案内を道路沿い に貼りだし参加を呼びかけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	電話や訪問による問い合わせには、支援の 方法やアドバイスを行っている。キャラバン メイトの活動として、認知症の啓発活動を 行っている		
4	(3)		2ヶ月に一回会議を開催している。その内容、意見を職員会議でも報告し、サービス向上に活かすよう努めている		
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の非常時放送設備が置かれ、徘徊高齢者SOSネットワークに認定されている。ケアサービス向上連絡会、ケアプラン支援協働事業に出席し、事業所の実情や取り組みについて伝えている		
6	(5)	行為   を正しく理解しており   玄関の施錠を含めて	日中は玄関の施錠は行わず、自由に出入りできる。利用者が一人で外に出た時は、職員が見守り寄り添う。かかわり方や言葉かけを含めケアについては、勉強会や会議で話し合いなどそのつど取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、 必要に応じて個別指導、定期的な面談、ま た全体で研修を行い職員に周知徹底してい る		

		ブループホーム南濃「福寿苑」	,		
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
一己	部	7 1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	市のケアサービス向上連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、勉強会を行うようにしている		
9		〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し同意を得ている		
10	(6)	〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	契約時に相談窓口についての説明やポスターの提示を行っている。他に家族アンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる		
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が日頃から意見や相談、要望を言える関係作り、職場作りに努めている。ほかに自己評価表の作成、年2回の個別面談を実施している		
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	給与や労働条件に応じた手当の制度など、 職員が意欲を持って働ける職場作りを目指 している。また有給休暇の取得率は90%を超 えている		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	施設内外の研修は年間計画を立てている が、今年度は内部研修が主となっている		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市のケア向上連絡会に出席し、同業者との交流、学ぶ機会を 定期的に持っている		

_		ブループホーム南濃「福寿苑」	, _ <b></b>		
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>Б</b>
一己	部	<b>ж</b> п	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Π.5	を心を	信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談では、生活歴や家族関係、その人のこだわりなど把握に努めている。本人が安心して思い、要望を伝えることができるように配慮している		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談、必要なサービスについて検討するなど努めている(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを忘れずに、本人の話に耳を傾け、お互いに冗談を言い笑い合えたり、相談に乗ってもらうなど助け合いながら共に生活が送れるよう関係作りに努めている		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	施設に入所しても家族の存在は特別なもの、大切なものであることを理解していただき、共に利用者を支えていくようお願いしている		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、お墓参りや喫茶店、馴染みの美容室に外出される。旧知の友人が訪れた時は、いつでも遊びにきやすい雰囲気作りなど支援に努めている		
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者一人ひとりの性格、認知度を把握し、 時には職員が橋渡しをして関係作りに努め ている。席の配置など状況に応じて配慮し ている		

	グループホーム南濃「福寿苑」						
自	外	項 目	自己評価	外部評価	<b>T</b>		
自己	部	<b>欠 ロ</b>	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約が終了しても、再入所 の申し込みされるケースがある。またいつで も気軽に相談していただくよう伝えている				
Ш	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン					
23		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常生活の中で本人の思いを聞き取り、困 難な場合は表情や行動から把握するように 努めている。得た情報は申し送りや会議で 共有している				
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からこれまでの生活歴など聞き取り把握に努めている。また入所前に利用していたサービス事業所の担当やケアマネとも連携している				
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送りや個別記録に言動や身体状況など 記載し、早期に気づけるよう努めている				
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、モニタリングを元にケアの方法を検討、実践している。本人、家族、医療機関と連携し介護計画を立てている				
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化、ケアの内容など記録に残し、職員間で共有に努め、介護計画の見直しに繋げている				
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた突然のニーズでも、出来る限り支援できるよう努めている				

	<u>グループホーム南濃「福寿苑」</u>					
自己	外	項 目	自己評価	外部評価	<b></b>	
	部	<b>久</b> 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や保育園などと関わり合い 楽しみのある暮らしを支援している			
30		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	終里什個別記録に磋  職員問で共右  て			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの 表情や様子の変化に気付き、異常の早期 発見に努めている。異常時は直ちに看護師 に報告し、また不在時も職員と看護師は連 絡しあい、適切な医療対応に努めている			
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報 提供を行う。また看護師は随時病院に顔を 出し、本人の状態を把握している。家族や主 治医、病院関係者と情報交換を行い、退院 に向けて支援している			
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	入所時に事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、 医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	救命講習を行い、定期的に対応を学び実践 に繋げるよう取り組んでいる			
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	実際に煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施している。近隣の地域住民でもある家族には、災害時の協力を要請し訓練にも参加してもらっている。地元消防団も訓練に参加してもらっている			

自		<sup>7</sup> ルーフホーム	自己評価	外部評価	Ti l
		項 目	実践状況	実践状況	
	L.	人らしい暮らしを続けるための日々の支援		3 4350 II 1135	
		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保			
		ー人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	ー人一人を人生の先輩として敬い、自尊心 を損ねない声かけや対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	信頼関係を築き、本人の思いや希望が聞け		
			るように会話を大切にしている		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一	一人ひとりのペースに合わせて一日が過ご		
		人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	せるように支援に努めている		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように			
		支援している	は、本人の意向を確認し希望の髪形にカット している。家族と共に馴染みの美容室に通 う利用者もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み	ー人ひとりに合わせた食事形態で自力、介 助で食べていただく。職員も同じテーブルで		
		や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	助で良べていただる。 職員も同じナーブルで 一緒に食事を摂る。 食後はお盆や食器の拭 き上げや片付けを一緒にしている		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて	食事量・水分量は個別に記入し、1日の摂取		
		確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	状況を把握している。水分は10時、3時、入 浴後以外にもくつろぎの時間に出すなど支 援している		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一	ロ中が良好に保たれるように毎食後一人ひ		
		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	とりの状況や本人の力に合った口腔ケアを 行っている		

白	外	7ルーフホーム <u>角濃「福寿苑」</u> 「	自己評価	外部評価	<del></del>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	************************************
		L ○排泄の自立支援	大成伙儿	<b>天</b> 歧认儿	次の人)うどに同じて知何したい内谷
43		は 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録により一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。立位の困難な利用者も二人介助でトイレで排泄できるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便の有無を把握し、水分補給の徹底、薬による排便コントロールなど一人ひとりに合わせて対応している		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、利用者の希望、タイミングに応じて、時間帯、温度、入浴方法など考慮し入っていただく。重度の利用者は 二人介助にて機械浴を利用している		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣、気分や体調に合わせて 休息の時間を持つ。夜間は環境を整え、安 眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の情報はカルテ、個別記録のファイル双 方にあり把握することができる。変更時は申 し送り欄に記載し共有し経過観察、体調確 認に努めている		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から得意なことなど把握し家事を手伝ったり、他の利用者と一緒 にレクに参加して楽しく気分転換になるよう 支援している		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩にでかけガーデニングや景色を楽しんでいただいている。初もうでやお花見など季節に応じた外出支援も全員参加で行っている。家族の協力のもと、定期的に週末に外出する利用者がいる		

	グループホーム南濃「福寿苑」					
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	家族と話し合い、できるだけ本人の希望に 添うよう支援している。必要な物は家族や職 員と一緒に買いに行くなどその人により対 応している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を取り次いでいる。状況に応じて、代わりに家族に伝えるなど支援している			
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席の位置、空調など配慮し共用スペースが 利用者にとって居心地のいい場所となるよう 支援している。また季節に応じて一緒に作っ た作品や写真を飾り、楽しんでいただいてい る			
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	自分の席以外にソファやテレビの前、和室 などですごし、気の合った者同士でくつろい だり談笑できる			
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	居室の壁には、家族や昔懐かしい写真が 飾ってあったり、本人が作った作品や誕生 日の写真も貼りだしてある。テレビを視なが らひとりでゆったりと過ごす利用者もいる			
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握 し、安全な環境の中で安心して生活が送れ るよう支援に努めている			